



あるじでえ

No. 113

世田谷区教育委員会 民家園係

〒157-0067 世田谷区喜多見 5-27-14

◎ 次大夫堀公園民家園

☎ 03(3417)8492

◎ 岡本公園民家園

☎ 03(3709)6959

平成2年11月1日 発行

平成3年2月 増刷

平成12年11月 増刷

いえ まつ かみ がみ 家に祀られる神々

1. <はじめに>

家は衣・食とともに、私達の日常生活になくしてはならないものです。住居としての家（日本語の「イエ」には、人の住む建物や屋敷空間全体を意味する以外に、その建物で生活を共同にする人々＝家族、および世代を通じて伝えられる家柄とか家風なども意味します。）は、雨や風を防ぐばかりでなく、目に見えない悪霊や病魔から人々を守ってくれます。すなわち、家に祀られている神々が、人々の生活を見守ってくれていると信じられてきました。こうした神々と人々が同居している家というのが、伝統的な日本の家だったのである。ところが1960年以降の急激な高度経済成長にともなう、伝統的な家もその姿を消しつつある現状です。そこで今回は、伝統的な日本の家ではどのような神々が祀られていたのかを見ていくことにしましょう。

家に祀られる神々は、建物の中に祀られる「屋内神」と、建物の外＝屋敷地内の一隅、あるいは近くの田畑や山中などに祀られる「屋敷神」とに大きく分類できます。以下、主な屋内神を取り上げて解説をしますが、屋敷神に関する解説は別の機会に譲ります。

2. <屋内神の色々>

①大神宮 伊勢皇大神宮が祀られており、略して「大神宮様」と呼ばれています。神棚と言えば一般的に、この伊勢皇大神宮が祀られている棚を指すことが多いようです。伊勢皇大神宮の他、地域の神社の神々も一緒に祀られています。

接客用としての座敷や出居の鴨居に棚を吊り、その棚の上に木製の祠を置いて、この中に御札を納めるようになっていきます。

毎月の1日と15日には、松や柳の常緑樹を供えて灯明を灯したり、地域神社の祭りの日には様々な供物や御神酒が供えられます。

②竈神 多くの場合、竈の上の棚に祀られています。地域によってその名称は様々で、カマジン・オカマサン・荒神・土公神などと呼ばれています。竈が家の中から無くなった今日では台所（カッテ）に棚を作って祀られています。火の神として信仰されている面が強いようですが、農作業の神、家族の守護神としての一面も持っています。例えば、田植が終わった時には竈神に苗を3把供えて、豊作を願います。（『稲作と祭り』を参照してください。）また、家族の者

が遠出をする時には、無事に帰ってくることを祈願したり、子供の夜泣きがひどい場合も、竈神にお願いすると治るとも言われています。

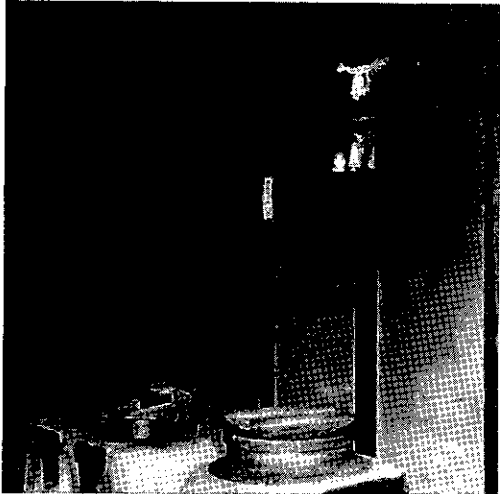


写真1 土間に祀られる荒神（岡本公園民家園 長崎家）

③恵比須・大黒 恵比須も大黒も七福神の1つとして知られている福の神で、台所（カッテ）に祀られています。恵比須に関しては「あるじでえNo.4」を参照してください。

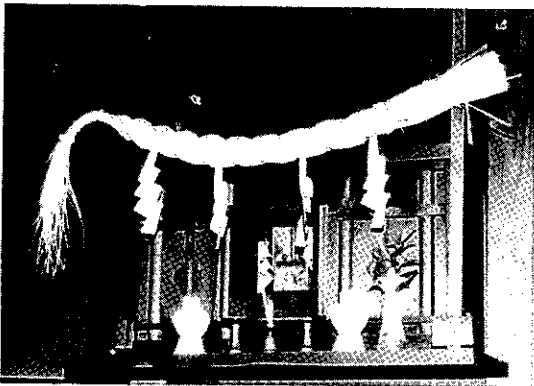


写真2 台所に祀られる恵比須・大黒
（岡本公園民家園 長崎家）

大黒は「大黒天」といって、古代インドでは戦闘神と考えられていましたが、わが国には、人々に財福をもたらす福神として

伝えられました。左肩に袋を背負い、右手に槌を持って、米俵に座ってにこにこ笑っている大黒様の姿を思い浮かべる人は多いことと思います。福神としての大黒信仰をわが国に最初に伝えたのは天台宗開祖最澄で、その後、各寺院の台所に祀られるようになったと言われています。そして次第に一般の民家にも広まるようになり、各家庭の台所でも祀られるようになったのです。

④納戸神 屋内の納戸に祀られる神です。納戸はヘヤ・オク・ネマとも呼ばれ、夫婦の寝室として使われることが多く、かつてはお産をする場所としても使われました。納戸神が祀られている地域は鳥取県や島根県など、中国地方を中心にして、西日本に濃く分布しています。納戸神の祭壇は、納戸の一隅に設けられた棚であったり、米櫃であったりします。そして、5月の田植の時、秋の穂掛け祝いの時、刈り上げ祝いの時、10月亥の子の時などに、ここに榊や御神酒を供えて祭ります。（穂掛け祝い・刈り上げ祝い・亥の子などに関しては『稲作と祭り』を参照してください。）

このように、納戸神は農耕儀礼と深く関わっており、田の神様としての性格を持っています。例えば兵庫県では、納戸神はオクノカミとかウチノカミと呼ばれており、女の神様で、作り神とか歳神、あるいは亥の神とも考えられているようです。（「歳神」については『あるじでえNo.7』を、「亥の神」については『稲作と祭り』を参照してください。）毎月1日と15日に供物が供えられますが、正月には米1升、餅1重ね、小餅12個、柿と栗とを12個ずつ入れた桶を納戸に供えます。さらに、亥の子にも1升餅に餅1重ねを入れて供えるそうです。

また、島根県隠岐島では、納戸神のことをトシトコサンと呼んでいます、トシト

コサンに関して次のような伝承があります。トシトコサンは正月11日の歛初め（年が明けて、農具である歛を最初に使って畑を耕す農耕儀礼）の日に家から田へ出られます。10月亥の子の日には田から家へ帰られるとあって、家の主人が田の水の出口を塞ぎ、神を迎えて来て納戸に紅葉を供えて祭るといふものです。このような、納戸神が家と田との間を往復するといった去来伝承は、九州・四国・近畿・北陸の各地に分布しています。

○ ⑤便所神 便所に神を祀ったり、便所に神がいるとする信仰は全国的に見られ、その名称もセンチガミ・カンジョガミ・ホウキノダイジン・オヌシサマ・オヒガミサマ・シリシリサマ・ウブスナサマ・シモヤノカミなどと色々報告されています。便所に棚を設けて紙の人形を供えたり(茨城県真壁郡)、便所を作る時に便所の下に紙でできた夫婦一対の人形を埋めたりする風習（富山県高岡地方）も報告されています。

便所神は人生儀礼、特にお産と深い関わりを持っている神です。妊婦が便所を何時も奇麗にしておくくと美しい子供が授かるか、お産が重い時には便所神がこれを助けると言われています。

○ また、雪隠参りと呼ばれる風習が関東地方を中心に見られます。例えば、生まれてから7日目に赤ん坊に新しい着物を着せ、産婆が抱いて便所へ行き、便所に落ちたり怪我をしないようにと祈った後、桑の木で作った長い箸で汚物を挟んで赤ん坊に舐めさせる真似をするといったものです。(茨城県真壁町)

一方、便所神はとても恐い神様で、便所で唾を吐くと目を病んだり、歯が痛くなったりするといったことは全国的に言われています。あるいは裸で便所に行くことも便

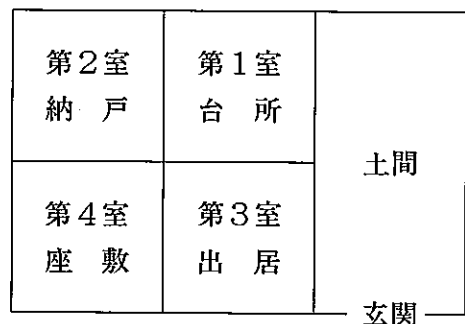
所神は嫌い、もしこの禁を破れば腋臭になるとか、お尻を引っかかれるなどとも言われているようです。

⑥仏壇 仏像や祖先の位牌を安置して礼拝するための仏壇は、多くの場合、出居や座敷に置かれます。仏壇は神棚とともに、家庭内の重要な祭壇です。家の宗旨などによって、その大きさや構造にはかなりの違いがみられます。仏壇の内部には段が設けられ、その中央上段には御本尊を安置し、その下に先祖の位牌を安置します。

盆や彼岸の他、年忌法要の日には、僧侶を招いてお経を上げて貰い、先祖の冥福を祈ります。また、毎朝家人が聖水や仏飯を供え、先祖の供養や極楽往生を願う対象ともなっています。

3. <家の表側と裏側>

日本の民家の典型的な間取りは、田の字型の4室から成る整形四つ間型と呼ばれるものです。図1に示されているように、整形四つ間型間取りでは、表の入口から入った土間の横側に、高床の居住部分が作られます。第1室は通常台所と呼ばれる部屋です。この台所には囲炉裏が作られていて、家族が食事をしたりする一家団欒の場として使われます。



第1図 整形四つ間型間取り概念図

第2室の納戸は先にも記しましたように、主人夫婦の寝室として使われました。いかなれば、第1室の台所とともにプライベートな部屋です。どんなに親しい人でも、この納戸に入ることは遠慮しなければなりませんでした。

第3室の出居は客を接待する部屋です。親戚や親しい友人などは第1室に招き入れますが、初めて訪問する外来者などはこの部屋で応対されるのです。

第4室の座敷も接客のための部屋ですが、ここには床の間や書院が設けられていることが多く、より改まった客人をもてなすために使われます。そもそも「座敷」とは、板の間の上に、客人をもてなすための座＝真座や筵を敷いたところから名前が付けられました。また、葬式や結婚式、あるいは村の寄り合いなど大勢の人々が集まる場合には第3室と第4室の境にある建具を外し、1つの大きな部屋として使用することもありました。

家の裏側部分にあたる第1室と第2室が家族生活のための私的な居住空間であるのに対して、表側部分の第3室と第4室は村生活のための公的な居住空間と考えることができます。

さて、屋内神が祀られている場所を家の表側と裏側とに分けると図2のようになります。こうした区分は部屋の性格と神々の性格との対応関係で決められ、どの部屋でもよいということではないようです。

仏壇が各家庭に登場するのは近世社会における宗教政策によるものと言われています。江戸幕府はキリシタン禁令などの宗教統制政策によって、人々をいずれかの寺院の壇家として登録させました。そして、各家々の座敷に仏壇を備えることが、寺の壇家であることの証明としたのです。

	部屋名	用途	祀られる神
表側	座敷 出居	接客 冠婚葬祭 村寄り合い	大神宮 仏壇
裏側	台所 納戸 土間	食事 睡眠 家族団欒	竈神(荒神) 恵比須・大黒 納戸神

第2図 家の表側と裏側の対照

このように、仏壇は神棚(大神宮)と共に公的な性格を持っています。そのため公的空間としての出居や座敷に祀られると考えられるのです。一方、竈神や納戸神は怒りっぽくて、人に崇りやすい反面、お産を助けたり、家を富貴にしたり、家族の健康を見守ってくれたりするなど、家族のための私的な家の神です。そのために台所や納戸などの私的居住空間である裏側に祀られるわけですが、詳しい内容については『続・家に祀られる神々』の中で解説することになります。

文化財資料調査員 高見寛孝